

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

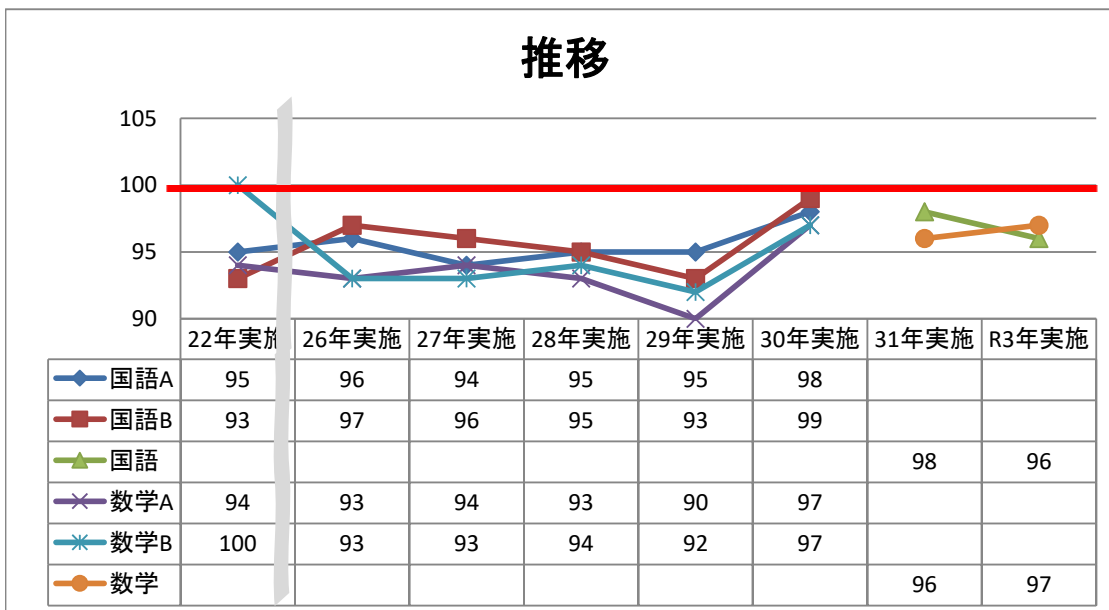
国語：98 数学：96

3.指標に向けての取組

- 基礎・基本の定着
 - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する
 - ・系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 家庭学習の質と量の向上
 - ・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる) ・個に応じた週末課題の提示と振り返り
- 授業改善
 - ・定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策を立てて、実行する

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	96	97
嘉麻市	97	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

【国語】

○「話す・聞く能力」と「言語についての知識・理解・技能」については、話合いの話題や方向を捉える問題、質問の意図を捉える問題において、全国の平均正答率に近い数値となった。朝学習での基本的な問題を徹底して行ったことや、根拠を明確にししながら自分の考えを書き、それをもとに交流する『表現させることを意識した言語活動』を授業づくりの視点の一つとして位置づけ、取り組んできた成果が表れてきていると考える。

●特に、「書く能力」と「読む能力」において、平均正答率が県や全国と比べて差がある。

⇒「書く能力」では、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える問題において、特に課題が見られた。

⇒「読む能力」においては、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題において、特に課題が見られた。

【数学】

○「数と式」の領域では、整式の加法と減法の計算問題において、「資料の活用」の領域では、与えられたデータから中央値を求める問題において、県や全国の平均正答率をわずかに上回った。上記の国語と同様、朝学習での基礎・基本を徹底した取組や、週末課題による振り返りが要因の一つと考える。

●「図形」、「関数」の領域において平均正答率の数値が低く、数学的に表現・説明することが課題である。

6.各学校における今後の取組

○基礎・基本の定着

・単元(題材)の中で、学習内容の定着を図る単元テストを計画的に実施する(単元指導計画に位置づけ、計画的に実施する)

・系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)

⇒数学全学年共通問題によるブロック活動の設定

○授業改善と家庭学習の質と量の向上

・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる ⇒ 自分の弱点を克服するための学習)

⇒生徒会活動と連動して質をあげる取組の設定

・個に応じた週末課題の提示と振り返り ⇒ 反復練習を重視する

・教師用授業チェック表を活用し、教科部会で検証を行い、実態や改善策を共有して実践する

○定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施 ⇒ 根拠を明確にししながら、筋道を立てて自分の考えを書き、それをもとに交流する活動

○各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策を立てて、実行する

○稲築中学校校区としての取組の推進(「授業の約束」の徹底や小中学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

○ 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。

○ 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。

○ 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。

○ 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。

○ 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。

○ 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。

○ 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。